

楠公さん生誕地を歩く

第 28 回歴史探訪の会は、中世「太平記」にも記されています、幕府軍との戦が行われました千早赤坂、楠木正成について、その周辺を含めユーモアたっぷりに説明して頂きました。



森田先生講演

楠木正成とその周辺について

はじめに

千早赤坂を舞台に活躍した楠木正成の奮戦の様子や湊川で最期を遂げた南朝哀史の話はあまりにも有名ですが、正成が近畿一円に残した数々のエピソードは案外知られていません。てくてく歩いて各地の歴史探訪をされている皆さんに、楠木正成にまつわる「こぼれ話」を紹介して、改めて多方面に正成が残している史跡の一端を見直して見たいと考えます。



楠公生誕地碑



「楠木正成のお先祖は橘諸兄」

奈良時代の左大臣で岸和田久米田に墳墓があり、聖武天皇や光明皇后また名僧行基らとも尽力した人という説もあります。

「幼名多聞丸と云われた正成は信貴山毘沙門天から授かる」

両親は長らく子宝に恵まれず、信貴山の朝護孫子寺の毘沙門天に願を掛けその結果授かったので多聞丸と名付けられ、「梅檀は二葉より香し」といわれる知恵才覚の優れた子供で金剛山麓の千早赤阪の里で、逞しく育てられ河内の土豪として大きくなりました。

「楠木正成が勅命により再建した重文の水分神社」

延喜式内社で崇神天皇の創建と伝えられる水分神社は南北朝には楠木家の守護神となり、現本殿は正成が再建した水分形式で、春日造りの中殿、流れ造りの左殿と右殿の三社とも廊下で連なる珍しい形式です。



左 水分神社 右 南木神社

「正成を助けた紙張りの野田城」

楠木氏の一門には、和泉の和田に和田氏、橋本村に橋本氏、野田村に（現北野田）野田氏等がいましたが、野田氏は紙で城を大きく見せて敵を欺き千早赤阪の城を固める時間を稼ぐために幕府軍を野田城で手こづらせました。野田正勝は湊川で正成とともに戦死、野田正氏は四条畷で楠木正行らとともに、無念の最期を遂げました。

「建武の中興の功で和泉の守護を賜った正成は和田氏に譲る」

摂津・河内・和泉の守護や河内守等の要職を、恩賞に帝から授かった正成は岸の方は一族の和田氏に譲りました。これが岸和田城のおこりです。

「観心寺に残る正成の首塚と建てかけの塔」

河内長野にある観心寺は、もと役小角が開き雲心寺とっていましたが、後に南朝方の勅願時に変わり国宝の金堂は正成が奉行として再建しました。金堂の東の建てかけの塔は、正成が三重の塔を建造中に足利尊氏の東上の報を聞いて湊川に走ったのでそのまま中止になって保存されています。戦後尊氏は正成の首を河内の貴族に送り届けましたが、それを見た子供の正行は、自分も切腹しようとしたが、母の楠公夫人に厳しくいさめられました。尚、夫人久子の墓は、観心寺の東北 1km にある、富田林の楠枇庵にまつられています。



観心寺の未完成になった建てかけの塔

まだまだ話は続くのですが今回は約一時間お話をして頂きました。有難うございました

昼食後楠公生誕地碑－産湯の井戸－建水分神社（たてみくまりじんじゃ）－南木神社（なぎじんじゃ）－奉建塔（楠公 600 年祭に寄付で建てられた、楠公 43 歳没に合わせ 43 尺の塔、非・理・法・権・天は良い言葉です）



建水分神社で説明を聞く



奉建塔の説明



南木神社



楠公産湯の井戸



奉建塔正成 600 年祭記念塔

今回探訪は出来ませんでしたが、下赤坂城近辺に寄手塚・身方塚があります、村営墓地の両サイドに、右に寄手塚五輪の塔（千早赤阪の戦で戦死した敵の将兵の霊を弔う為に正成が建立したと言われている）、左に身方塚（正成軍の将兵の霊を弔う五輪の塔）敵の塚を敵と呼ばず寄手と呼び、身方塚より寄手塚の方が大きい、正成は忠義だけでなく恩情も厚く奥ゆかしい人柄であったと伝えられています。



寄手塚



身方塚



最後に全体写真